

2015 年
入試用

学校説明会レポート



東京成徳大学中学校・高等学校

- 日時 2014 年 5 月 15 日（木）10 時 30 分～11 時 46 分
- 所在地 北区
- 会場 校内ヴェリタスホール
- 対象 塾
- 出席者数 約 180 名 空席あり
- 配付資料 リーフレット（中高一貫部・高等学校）、ポスター（中高一貫部・高等学校）、説明会資料、2014 年中学校第 1 回午前・午後の入試問題、中高一貫部教室配置図、アンケートなど。

説明会の概要

あいさつ

木内校長 10：30～11：00

- 我が校は、①進学、②文武両道、③生き方を考える、という 3 つに力を入れています。
- ①進学…2014 年春は、国公立大へ 47 名、早大に 11 名が合格し、MARCH も合格者が大幅に増加しました。高校は特進・進選・進学の 3 コース編成で、上位の生徒は難関大学を、下位の生徒も落ちこぼれさせないという方針で指導しており、特進コースでは現役で中高一貫部が 9 割以上、高等部では約 8 割が合格しています。入試段階の成績はけっこう幅が広く、それらの生徒を順調に伸ばすことができた年であったといえます。
- ②文武両道…建学の精神「成徳」とは徳を成すことです。人間教育を重視し、社会に出て役立つ人物になってほしいので、部活や生徒会活動などにも積極的に取り組んでもらいたいと思っています。中高一貫部と高校の校舎は徒歩で 5 分ほど離れていますが、2 校舎で体育施設が 7 カ所あり、都内では設備が整っている学校といえます。部活では女子ラクロスや男子サッカーが有名ですが、吹奏楽部、読書甲子園で優秀賞を頂いた文芸部、国内の生物オリンピック決勝大会で銅賞だった生物部なども活躍しています。
- ③生き方を考える…自分に自信を持って価値ある生き方をしてほしいという観点から始めたプログラムです。戸隠高原でのキャンプ生活では不自由な生活をする中でたくましさや身を付けていきます。中 3 のニュージーランド 3 ヶ月留学は約 40%の生徒が参加し、現地校に 2～3 名ずつ分かれて暮らしますが、英語力の向上だけでなく生き方が変わ

ったという生徒も多く見られ、手応えを感じています。

- 卒業生の活躍する範囲は広く、最近では歌舞伎役者や映画の助監督として活躍しているものもあります。生徒や保護者への責任として、潜在的な能力を引き出すことに主眼を置いており、数年後センター試験が全国レベルでスコア方式になることに対応し、それに恥じない生徒を育成していく所存です。まもなく100周年記念となります。東京成徳大学中・高が目指す教育を、今後もビジョンを持って進めていきたいと思っています。

2014 年度中・高入試結果報告

中学広報部長 増澤先生 11:00~11:20

- 大学合格実績について報告します。MARCH以上の大学への合格者は2012年176名、2013年235名、2014年274名と右肩上がりに増加しています。
- 中学入試では適性検査入試を導入することと、帰国生入試の時期を変更します。詳細は後述します。
- 中学の応募者は男女合わせて530名で、全入試で特待判定を行いました。A特待では18名合格、入学率50%、B特待では28名合格し、入学率は43%でした。入学者は定員160名のところ、男子56名、女子80名で定員に満たなく、計136名でした。
- 高校は特進・特選・進学の3コースで、それぞれの入学者は特進110名、特選177名、進学158名で、2014年は特進の中にSクラスを1クラス作りしました。進学コースのクラスが減って上位クラスが増えたことは少しずつ上へシフトしていると考えられます。
- 特色あるカリキュラムとしてサタデープログラムを実施しています。従来は土曜日の午前中やっていたものですがこれを午後に移し、13:20~15:00まで4~5講座を設けました。履修率が高く運動系で84%、文化系で14%となっています。理科の実験、美術の立体と平面、コンピュータなど、授業とは違った内容の講座でとても人気があります。午前中は2時間英語の学習を取り入れました。

中高一貫部の学習状況及び学校生活について

中高一貫部副校長 中村先生 11:20~11:32

- 中高一貫部の教育の柱に、自分を深める学習があります。本校の建学の精神にマッチしたオリジナルの心の教育プログラムのことで、テーマを「自分とは何か、なぜ学ぶのか、そしてどう生きるのか」としています。学年毎に年齢にあった具体的な学習を進めていますが、1年では「人と人とのつながりを考えよう」、2年では「いのちのつながりを考えよう」、3年では「社会とのつながりを考えよう」と進んでいきます。例えば、1年の戸隠でのナイトプログラムでは、広い場所で5メートル間隔に一人ずつ横になり、静かに耳を澄ましてみます。すると、風の音や虫の声など普段気づかないものに気づき、寒いとか一人で恐いとかの感情が、「仲間がいるので一人ではない」ということに気づくようになります。2年では川遊びで放流した鮎を捕まえ、火を起こして焼いて食べるのですが、どこまでが生き物でどこからが食べ物なのかをみんなで話し合います。いのちを頂

くということを考えさせます。友達の意見を聞き、自分と違う考え方にも触れ、視野を広めていながら、自分を大切にするとともに他者を大切にすることを学びます。この学習を進めていながら将来を真剣に考えることで大学や学部選択につながっていくものと期待しています。

高等部 学校生活及び特進コース「Sクラス」状況について

高等部副校長 野中先生 11:32~11:46

- Sクラスは、将来社会を牽引していくリーダーを養成することを目的に設置されました。男子 17 名、女子 15 名の 1 クラスですが、平均偏差は 67.8 と高く、生徒は 4 名以外が特待生で編成されています。リーダーとして必要な柔軟な発想力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力などをどうやって身に付けていくのか、授業内容は特進クラスと同様ですが、CTP (Critical Thinking program) という、進度・深度レベルを上げるカリキュラムを取り入れて、固定観念にとらわれない柔軟な考え方を身に付けることを目指しています。学び合いを軸に論理的・多角的な視点で思考できるように、コミュニケーション力も養いたいと思っています。基本は学び合いなのでテストなどはありません。理科では月・金が 2 時間連続で授業を行い、机上に置かれた 3 種類の物質が何であるかを分析する学習では、個人やグループで考え、実験方法を話し合いで求めさせています。自由に発想を意見交換し、試行錯誤して実験方法を考える、まさに「学び力」が身に付いていきます。また、日常的に英語に触れられるよう、ネイティブが副担任になっており、英語・数学では東大生にチューターを務めてもらっています。一斉授業では身に付くのが 10%以下といわれていますが、生徒が食いついてくるような授業展開ができるように、先日埼玉県のある学校を見学してきました。この学習は将来的には他のコースでも取り入れ、学校全体で進めたいと思っています。将来リーダーになるために一見無駄のように思える取り組みですが、繰り返し実施することでより実力がつくものと確信しています。

入試

入試広報部長 増澤広報部長

- 【変更点】①中学入試→2月1日午後入試 公立中高一貫校向け「適性検査入試」を実施。適性検査Ⅰ…まとまりのある文章を作る、適性検査Ⅱ…課題を発見して対応する。50名以上の受験生が白鷗、両国・小石泡・九段を受けている実態から2年前から準備しており、後発ではあるが2015年入試より実施することに決定しました。
- ②帰国生入試の実施日の変更 12月 → 1月24日

説明会の雰囲気・印象

- 資料が整い、説明が分かりやすかったです。先生方は明るくはつらつとされていて熱心さが伝わってきました。大学合格実績も大切ですが、実績だけに目を向けるのではなく、心

の教育や人間教育に力を入れている点に好印象を持ちました。高校でのSクラスの説明では、素晴らしい内容ですが、特待生に偏っているように感じ、早く一般生にも取り入れてほしいと思いました。

学校周辺の環境

- 最寄り駅は交通量の多い国道 122 号線に面しているが、通学路は住宅街の中で歩道が完備されている。周辺はマンションや団地、戸建ての住宅が並んでいて下町の風情がある。

交通

- メトロ南北線王子神谷駅から徒歩5分